



巻 頭 言

学びの宝庫 ～教え子の卒業文集から～

両沼小学校長会副会長 菅 家 篤
(会津坂下町立坂下南小学校)

19年ぶりに両沼地区の学校に勤務することになり、以前、教諭として勤務した高田小学校の卒業アルバムと文集のページを懐かしくめぐってみました。その時、目に飛び込んできたのが、私が担任した女子児童Mさんが書いた作文のタイトル「学びの宝庫」でした。

「学びの宝庫」 (高田小卒業生 Mさん)

高田小学校には6年間お世話になり、たくさんのお話を学びました。楽器たちには胸踊らされ、「ボカン」と実験大失敗や、作品の裏を見ればがんばったことが分かる裁縫。いいにおいがたよう調理室。カラフルに染まる図工室。屋上は風が気持ちいいし、「30人31脚」を応援してくれた高田小のシンボルとちの木。雪が積もればミニスキー場になる築山など、私は6年間で高田小から成功や失敗などのたくさんのお話をもらうことができました。

そして一番お世話になったのが、笑いあふれる明るさたえない、時には涙もあった6年1組。そんなこんなで勉強だけじゃなく大切な気持ちも学ばせてくれた高田小学校。一番学んだ気持ちは「やればできる!」ということ。先生からも高田小からもこの気持ちを学び、そしてやればできるを信じ、たくさんのお話に挑戦しました。ボランティアとあいさつを通して、高田小のふんい気もガラッと変わったと思います。

卒業まであと少しだけれど、中学校に行っても高田小に見守っていてほしいと思い

ます。今では、ありがたいの気持ちでいっぱいです。先生や学校に学んだ「やればできる!」という気持ちを将来に生かして生きていきたいと思います。

これぞ学びの宝庫だ、高田小学校。

あと少し、卒業までちゃんと見守っててください。ありがとう。

Mさんの学校への思いが伝わってくる作文です。校長になった今、改めて読み返してみると、担任の頃とは違う捉え方をする自分がいました。それは、学校という場所が子ども達にとっていかに大切なものであるかということです。作文には、Mさんが感じた学校の魅力、「ひと・もの・こと」が随所に書かれています。失敗さえも学びと捉えています。

生徒指導では「居場所づくり」「絆づくり」の重要性が叫ばれていますが、学級がMさんの心の拠り所になっています。そして何よりも、「高田小学校」という言葉が8回も登場しています。これは正に、学校を愛し誇りに思うMさんの心情の表れです。

この作文を読んだ後、「私は校長として、子ども達にこんな風に思ってもらえる学校づくりが出来ているだろうか…」と、自問し、少し自信がなくなりました。

今、学校は様々な課題を抱えています。Mさんの作文を読み、校長として魅力ある学校づくりへの思いがより強くなりました。

校長先生方、学校は捨てたもんじゃありませんよ。魅力的な「学びの宝庫」にすべく、お互いがんばっていきましょう!

特別寄稿



『セカンドペンギン』

湯川村教育委員会教育長 二瓶 重和

1998年に不登校の小・中学生が12万人を越えたことが大きく報じられ、その後も増え続けています。昨年10月に発表された「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によれば、令和4年度の不登校児童生徒数は299,048人で過去最高を大きく更新しました。（「病気や経済的理由など」で長期欠席しているケースを加えると、46万人＝5.0%の小・中学生が登校していないことになります）。何とかしなければなりません。

私は「新たな不登校の児童生徒が出ないようにしたい。不登校の子どもたちが『学校復帰』ができるようになってほしい」と願っています。そして、先生方には「子どもたちが『不登校の状態に陥らずにすむ学級づくり』に取り組んでほしい」と思っています。

不登校の未然防止のためには「児童生徒が安心して生活できる学級・学校づくり」が不可欠で、このために有効な学習活動が「人間関係づくり」です。体験的な学習活動である「人間関係づくり」をとおして、子どもたちは「自己理解」や「他者理解」を深め、「I'm OK」や「You're OK」の感覚をもてるようになります。また対立や混乱を乗り越えて目標を達成する活動をとおして、「集団効力感」である「We are OK!」を実感できるようになります。そして、この過程で「私は私のことが好き」、「私ってけっこういいかも」という気持ちが生まれ、多少苦手なことであっても取り組めるようになっていきます。

私は「湯川村の小・中学校で『人間関係づくり』を計画的に展開していきたい。きっと『いじめ』や『不登校』の未然防止につながるはずだ」と考えています。1学期に各学校でQ Uの結果に基づいた「人間関係づくり」のモデル授業をさせていただきました。また、夏休みには村教育委員会主催で、村内の先生方を対象に「2学期の学級づくりにおすすめのエクササイズ・アプローチ」というテーマで「人間関係づくり」の研修会を開催し「発達支持的生徒指導」・「課題予防的生徒指導」・「困難課題対応的生徒指導」の具体的な例を体験させていただきました。道徳や学級活動に限らず、各教科の授業を「人間関係づくり」の視点を加えて進めることで『『あたたかさ』と『けじめ』のある学級』になります。これは「心理的安全性」の確立でもあり、不登校の状態にある子が再登校し、学級復帰を果たす上でもとても重要な要件になります。

学校で「人間関係づくり」を推進することで、子どもたちも先生も、保護者も「ウイン・ウイン」になります。東日本大震災の前の数年間、県内の〇町ではT教育長のリーダーシップにより町内の小・中学校で「人間関係づくり」が展開され、大きな成果を上げていましたが、残念ながらこのことは広く発信されることはありませんでした。私は「T教育長に続く『セカンドペンギン』になりたい。湯川村から『人間関係づくり』の意義を『成果』として発信したい。」と思っています。



転入校長・地区内移動所感

「明日も来たくなる学校」に

湯川村立笈川小学校長 前田 敬

4月より笈川小学校に赴任し、両沼小学校長会の皆様には大変お世話になっております。昨年度まで喜多方市立熊倉小学校に勤務していましたが、両沼地区での勤務は、教員生活初めてで、勝手が分からず、適度な緊張感と戸惑いを覚えながら毎日を送っています。

さて、私が着任しました湯川村立笈川小学校ですが、「会津のへそ」とも言われる会津盆地の中心に位置し、秋にはたわわに実った稲穂の風景が広がるのどかな田園地帯の中にある学校です。現在、児童数76名、教職員数17名と少人数ではありますが、保護者や地域の方々の温かいご支援とご協力のお陰で、充実した教育活動を展開することができています。

この笈川小学校の目指す学校像は「笑顔にあふれ 明日も来たくなる学校」です。子ども達が、毎日、笑顔で安心して通える学校であるために、全教職員で子ども達を温かく迎え、子ども達が学校へ行くと「友達と学び合えるのが楽しい」とか「友達と遊んだりおしゃべりしたりするのが楽しい」とか「先生とふれ合えるのが楽しい」とか思えるような「楽しいことが待っている学校」を目指しています。そこで、特に、一人一人に居場所のある学級経営の充実を図り、互いに認め合い、励まし合い、高め合える児童を育てるとともに、児童主体の授業づくりの下、楽しく学び合う中で、思考力・判断力・表現力等を育み、確かな学力が身に付いた児童を育てることに、日々、力を入れて取り組んでいるところです。

最後になりますが、両沼地区小学校長会の皆様には、今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願いたします。

繋がりを大切にして

柳津町立柳津小学校長 大越 久

昨年まで2年間、横田小学校で務めさせていただきました。今年度から隣町の柳津町ということで両沼地区との縁を感じずにはいられません。柳津小学校も学校の近くを只見川が流れ、晴れた日には水面に山々が映し出されています。また、川霧が立ち込めると幻想的な景色を見ることができます。私はこれら風景が大好きでとても心が落ち着きます。

両沼校長会には、先輩や同級生をはじめ面識のある校長先生方が大勢いて安心すると同時にとても心強く感じています。新しく両沼においていただいた校長先生方からも多くを学び、今まで以上に人と人との繋がりやご縁を感じながら、仕事をさせていただいている今日この頃です。

「教育は人なり」と言われます。学校教育は担い手である教師の指導力・豊かな人間性を抜きには語れません。同じ教材、同じ学習指導案で授業をしても、子ども達の目の輝きが違います。「個別最適な学び」と「協同的な学び」を実現するためには、授業技術だけでなく、豊かな人間性、特に一人一人の子どもへの深い理解・愛情が重要な要素になるように思います。教職員一人一人を大切にして繋がり、価値観を共有できれば進むべき方向も自ずとそろってくるのではないのでしょうか。

ご縁あって受けたバトン。柳津町の自然、文化、伝統を学び、人と人との繋がりに深く感謝しながら、精一杯取り組んでいきたいと思えます。



新任校長・副校長所感

最後の横小だからこそ

金山町立横田小学校長 飯塚 秀一

今年で131年目を迎えるこの横田小学校に4月に赴任し、5ヵ月余が経ちました。全校児童10名の本校は、会津では西山小学校と同じ児童数で、一番少ない人数の学校です。これほど少ない学校に勤務するのは初めてで、戸惑うこともありましたが、やはり小規模校のよさを毎日体感しています。

まず、驚いたのが、始業式での子どもたちの元気のよさです。わずか9名しかいないのに、あいさつももしっかりできるだけでなく、校歌もとても大きな声で歌うことができていました。

普段の授業では、子どもと教師の距離が近く、先生方も一人一人に焦点を当て、親身になった授業を展開してくれています。各種行事では、全員が役割を持つので責任感も強くなり、1年生でも大活躍する場面がたくさんあります。さらに、下校の時には、校長室前を必ず通り、一人一人が「さようなら」とあいさつをしてから帰ります。

残念ながら、本校は今年度末で統合となります。何をしても「横田小学校での最後の体験になる」と子どもたちに話し、楽しい思い出の一つ一つを心の中に刻んで、夢と希望をもって「かねやま小学校」へ進級してほしいと思っています。

そのために、少しでも多く、子どもたちの元気で楽しげな声が響く横田小学校になるように取り組んでいきたいと思ひます。



魅力ある学校づくりのために

会津美里町立本郷学園副校長 高倉 順一

今年度、義務教育学校として本郷学園が開校して半年が過ぎようとしている。開校を迎える前は、小学校と中学校が1つの学校となり、これまで築き上げてきた学校としてのそれぞれの役割や機能を果たせるのか、先生方同士のコミュニケーションは円滑に図られるのか、心配な面も多々あった。しかし、いざ学校生活が始まってみると、星潔校長先生のリーダーシップの下、子どもたちも我々教師も期待と希望に胸を膨らませ、笑顔があふれる学校となっていった。5月に行われた開校記念大運動会は1年生から9年生が紅白に分かれて競い合ったが325対324という劇的な結果で幕を閉じた。結果以上に1年生から9年生が全力で競い合い、心を通わせながら仲間を応援する子どもたちの姿に、本郷学園が1つになっているという実感で胸が高鳴った。9学年に渡る子どもたちが在籍する学校生活は想像もつかなかったが、気がつけば1つの学校をみんなの手で築き上げていこうとする思いや熱意が感じられる学校となっていた。

本校の教育スローガンは「本気で郷GO! ガッツ クリエイティブ エンジョイ チーム本学」である。校長先生はこの言葉を学校行事、学校通信や学校のホームページ、職員会議の校長指示伝達事項に及ぶまで徹底して使われ、その都度、常にフィードバックされている。言葉の力は大きいもので子どもたちだけでなく我々教師の日々の教育目標や指標となっているのである。この思いを真摯に受け止め、副校長として、これからも子どもたちと先生方と寄り添いながら、この教育目標を実現に向かって教育活動を楽しみながら、責務を日々全うしていきたい。



学校経営。実践紹介

人と関われる子どもを育てる

会津美里町立宮川小学校長 伊達 明美

宮川小学校はふんだんに木材が使用され、木のぬくもりにあふれる。森林が町面積の73パーセントをしめる会津美里町を象徴するような学校だ。来校された方々は大木の柱や梁に驚かれる。1年生では両手指が届かない太さの柱。この大木に負けないような学校経営をしたいものだと思わせてくれる。

昨年の卒業式間近のことだった。どの学年も6年生に感謝を伝える準備を進めていたが、6年生のことが分からないという児童が多いのが気になった。感染症対策により子どもたち同士の関わりは希薄となった。校内でこうであるなら、地域とはもっと遠く隔たれているのは当然と思えた。教職員との関りはどうか。毎日何人の先生と言葉を交わしているものだろうか。本年度の学校経営の軸は人との関わりと決め、教職員と共にどのような関わりが考えられるか、教育課程を練り上げた。

縦割り活動を深めるため、給食を清掃班で摂る「全校給食」とした。複数の教員が授業を担当する「教科担任制」を導入した。3年生以上は、担任の他6名ほどの教員と関わる。毎日地域の方に学校へお出でいただき、児童とふれあっていただく「地域ボランティア宮川チームズ」を募集し、毎日給食配膳活動等をしていただいている。児童・先生・地域保護者との関わりを深めている。

学校経営の具体的な取組は、根として伸びていき、一つの幹を支えている。人と関わることができる子どもという幹を太くするため、「縦割り活動」「教科担任制」「地域ボランティア宮川チームズ活動」の根を這わせていく。宮川小学校という大きな木を守り育てる。人と関わることに自信をもつ児童を育てている。



統合に向けて

金山町立金山小学校長 矢部 吉彦

令和7年4月1日、金山町の2つの小学校は統合し、「かねやま小学校」が開校する。校舎は現金山小のものを使用するが、校名、校歌、校章は新しいものとなる。順調に進めば、この広報が発行される頃には新しい校歌や校章も決定しているはずである。現在、金山小と横田小では連絡会と称する組織を設けて、町の統合準備委員会での議論や決定事項を受け、町教育委員会事務局の指導・助言をいただきながら、円滑な統合に向けての準備を行っている。

実務的な準備にあたっては、できるだけ感情を排し、冷静に着実に考えているが、児童として、卒業生として、保護者として、地域住民として、金山小で過ごしたり、関わりをもったり、想いを寄せてくれたりする多くの人々のことを思うとき、学校の歴史に一区切りがつくことの重大さや責任の重さを痛感する。また、横田小・横田地区に関わりのある人々の想いはいかばかりかとも想像する。同時に大きな期待を寄せていただき、歴史の変革に携われることを光栄にも思う。

「統合してよかったとみんなが思える学校にしてほしい」と7月末で退任された前金山町教育長から常々話をいただいていた。子どもたちには、「学校の今までの歴史に感謝し、新しい学校の誕生をお祝いしよう」を基本コンセプトに、寂しく思う気持ちを尊重しつつも統合への不安を取り除き、ワクワク感を醸成していきたい。そして「夢をもって登校し、笑顔で1日を過ごし、満足して下校する」ことができるかねやま小学校となるように、対話と協働を重ねながら、準備を確実に行っていきたい。



教育随想・所感

編集後記

視線のレイザー・ビーム

湯川村立勝常小学校長 荒川 信一

勝常小学校に隣接する勝常寺は起源を平安時代にまで遡る東北を代表する古刹です。多くの重要文化財を有しており、中でも薬師堂本尊「薬師如来座像」及び「日光・月光菩薩立像」は国宝に指定されています。

勝常小に赴任した昨年度の春、薬師如来座像は、多賀城市に出張中(笑)でした。5月中旬「出展先から薬師如来が戻されますので搬入の様子を見学しませんか。」というお話をいただきました。国宝ともなれば、一般の物品搬入とは訳が違います。運送会社の国宝運搬専門チームが請け負いますので、なかなか見学できるチャンスはありません。「子どもたちに是非見せたいです。お願いします。」と即答しました。

搬入当日、一足先にお寺を訪れますと薬師堂では、作業の真っ最中。張り詰めた空気の中、専門スタッフの方々が、慎重に大きな木枠から緩衝材に包まれた人型を引き出していました。中までどうぞと促され、遠慮がち近寄って、頭部から徐々に緩衝材が外される様子を見ていました。顔の部分の緩衝材が外されると、さらに不織布が巻かれていました。不織布も上から取り外されていきます。

そして、事件は起こります。目隠しになっていた不織布が取り外された瞬間、心の準備もないまま、私は如来と目が合ってしまったのです。如来の視線が刺さり衝撃が走りました。たじろぎました。魂がとりさわられたような感覚に陥った言えば大げさでしょうか。

ともあれ、特に信心深いわけではない私が、これ以来すっかり薬師如来様のファンになってしまいました。関連本を読んだりお参りをしたりして、日々励んでおります。

勝常の子どもたちのために心血を注いで努めなさいというお薬師様の啓示だったのかも知れません。

国宝の力は侮れません。



今夏には令和の米騒動がニュースの話題となりましたが、稔りの秋を迎えて、両沼地区でも稲刈りが順調に進み、例年並の米の収穫があったとの周囲の声に、安堵感を抱いています。米どころに育ったこともあり、「米はいつでもあるもの」と思っていた意識を改め、生産者の方への感謝の念を込めつつ、おいしい新米を噛みしめたいと思っています。

さて、お陰様をもちまして『広報両沼』第145号を皆様にお届けすることができました。「特別寄稿」には湯川村教育長、二瓶重和様より玉稿をいただきました。「巻頭言」をお寄せいただいた菅家篤副会長様をはじめ、原稿をお寄せいただいた各校長先生には、ご多用の中、誠にありがとうございました。

今年度も後半戦に入りました。メジャーリーガー大谷翔平選手は、シーズン最初にトラブルに巻き込まれたにもかかわらず、自分のペースを保ちながら、残り10試合をきったところでさらに調子上げ、これまでの記録を次々と塗り替えました。私たち校長も後半戦にさらに成果を発揮し、良い意味で周りの予想を超えていければと思います。「そのために必要なものは何か…」と考えたときに、ピン!ときました。「デコピン」です。

大谷翔平選手は、愛犬デコピンとのかかわりでバランスをとっているように思います。校長先生方にとってのデコピンは何ですか。

これから心地よい秋があつという間に過ぎ、雪国会津の冬に向かいます。寒い季節となりますが、心の炎は燃えたぎらせ、お互いに健康第一で、学校経営を充実させていきましょう。多方面からデコピンされてもくじけずに、Myデコピンを大切にしながら。

令和6年10月14日

両沼小学校長会広報部第145号担当

新鶴小学校長 鈴木 祥晃

